



病院だより

山鹿市民医療センター

鹿本医療圏における病院連携について

病院事業管理者 別府 透

山鹿市民医療センターは、201床の鹿本医療圏で唯一の公的病院であり、感染症病床 4 床、地域包括ケア病棟 38床、緩和ケア病棟 13床、HCU 6 床を有しています。地域医療支援病院をはじめ、熊本県がん診療拠点病院、救急告示病院、災害拠点病院、臨床研修指定病院、などの責務を負っています。今年の 4 月からは病院事業管理者 別府 透(外科)、病院長 高木 茂(整形外科)の新体制となり、がん診療、高齢者医療、予防医学を 3 本の柱として、病院の活性化に取り組んでいます。

オミクロン株による第 6 波、第 7 波が押し寄せ、新型コロナ一色之年になっています。当センターは第二種感染症指定医療機関として新型コロナ診療に従事しています。陽性者の届け出入院ベッド数は 10床ですが、14床まで増床して対応しています。さらには県北全体での地域連携により小児患者や妊娠中の患者さんなどの対応も速やかに行えるようになりつつあります。当センターへの陽性患者の入院数は、本年 8 月までに 325名に達しています。7 月までは、山鹿保健所から全陽性患者のトリアージ依頼(計 3,112名)を受けていましたが、鹿本医師会の先生方のトリアージへのご協力により、8 月は 173名に減少しました。陽性患者の後方支援医療機関としても 3 病院の協力をいただいています。

2019年 4 月に「熊本県地域医療連携ネットワーク構想」の地域医療拠点病院の指定を受けました。熊本県における連携システム『連携医制度』に準じて、かかりつけ医との高度医療機関との間の中核病院として機能することを目標としています。地域医

療支援病院運営委員会や開放型病院運営協議会を地域の先生方と定期的で開催しています。本年 8 月末現在で、登録医療機関は 75施設、登録医は 101 名と着実に増加しています。紹介患者総数は R4年度予測で 2,433名、保健所経由患者を初診患者から除いた場合の R4年度の紹介率は 63.1%、逆紹介率は 82.4%と比較的良好です。開放病床型病院として、登録医の先生方との共同診療や画像診断機器の共同利用を積極的に行っています。特に 9 月中に 320列の MD-CTの導入が決定しており、心血管、脳血管、肝臓疾患等の診断精度の向上と被曝量の軽減が期待されています。

当センターは医学教育にも力を入れています。初期研修医の卒後臨床研修(地域医療)、医学部学生の特別臨床実習(地域医療)を年間 10名程度受け入れています。複数の診療科の協力による参加型の研修・実習を行えていることに加えて、温泉施設への宿泊を確保しているため、ほぼフルマッチ状態です。訪問診療は地域の先生方にご協力をお願いしています。地域連携室や地域包括支援病棟にもローテーションしてもらって、地域での連携のあり方を学んでもらっています。

「地域住民の生命と健康への貢献」という当センターの基本理念に基づいて、患者さんを中心とした地域完結型医療の実践に向けて職員一同、鋭意努力してまいります。今後とも、皆さまには益々のご指導、ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。